

令和7年度 学校自己評価システムシート（県立志木高等学校）

目指す学校像	志木高スピリット（立志・言志・続志）の下、高い志を持ち、自分の夢を実現できる学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立と授業改善により、主体的な学びを推進し、学力を向上させる。 志木高スピリットを醸成させ、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を身につけさせる。 安心・安全な学校生活を保障し、学校生活に誇りと自信を持たせる。 地域とともに歩む、魅力ある高校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (1 2 月 1 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ○平日の家庭学習時間が少なく、学習習慣が確立されていない生徒が多い。 ○ICT支援員を活用した教職員研修会を実施するなど、授業力の向上という点で成果が出ている。 【課題】 ○家庭学習の必要度を理解させるとともに、具体的な学習方法を示す。 ○重点授業公開をさらに充実させ、教員の授業力を向上させる。 ○ICT活用に対するサポート体制を充実させ、学校全体のICTスキルのレベルを向上させる。	学習意欲の向上と基礎学力の定着	①学習状況の振り返りを定期的に行い、家庭学習の把握と計画的な課題の配信を進める。 ②生徒の将来像を明確にし、進路実現に向けた計画を作成させる。 ③学習コンテンツを効果的に活用しながら隙間時間を有効活用させる。	①アンケート結果から家庭学習時間の増加が確認できたか。 ②進路実現に向けた計画が作成できたか。 ③学習コンテンツを効果的に活用できたか。	①保護者、生徒アンケートを12/11から12/17で実施する予定である。 ②生徒の将来像を職員で共有する研修会（2回）を実施し、将来像について意見交換した。 ③各教科で有効性の高いコンテンツを活用できている。	A	①アンケートから家庭学習の時間を確保するために、生徒自身が自ら学習に取り組めるように組織的に支援していく必要がある。 ②将来の生徒像、身に付けさせたい力について、研修会やワークショップに取り組む。 ③教科の特性に応じて効果的な学習コンテンツを積極的に取り入れていく。
		ICT端末の活用と授業力の向上	①ICT支援員を活用した簡易支援制度を充実させ、教職員のICTスキル向上させる。 ②課題配信のICT化を進め、学校全体で情報を共有するシステムを構築する。 ③ICT端末を活用した学習環境を整備し、生徒の学習意欲を向上させる。	①ICT支援員を活用した簡易支援制度が構築できたか。 ②課題配信のICT化により、情報を共有するシステムを構築できたか。 ③生徒の学習意欲を向上させることができたか。	①ICT支援員が教員の校務用パソコン等の整備をしている。支援体制は構築できつつある。 ②定期考査前の朝学習の課題配信や平常授業時の課題配信を行っている。 ③生徒の学習意欲を向上させるようにクイズ形式のソフトやGoogleスライドを活用した課題提出などに取り組んでいる。	A	①教職員がこれまで以上にスムーズにICTを活用できるようにICT支援員との連携と情報共有、課題の洗い出し等を組織的に行う必要がある。 ②ICTを活用した課題配信を行うことにより、教職員の負担軽減とDX化を進めてく。 ③ICTに頼りすぎず、紙とデジタルを融合させたハイブリットな教育活動を推進し、生徒の学習意欲を向上させていく。
2	【現状】 ○四年制大学等の進学実績は大幅に上がっている。 ○進路決定に動き出すのが遅い生徒が一定数いる。 ○遅刻者数が多い 【課題】 ○進学先の決定や受験方法について、最新情報の提供も含めてきめ細かい指導が必要である。 ○スタディサポートや学習コンテンツを活用して、生徒の意識改革を早期から行う必要がある。 ○遅刻者数を減少させ、タイムマネジメント力を向上させる必要がある。	進路実現に向けた生徒の意識改革	①細分化した担当分野の業務内容を見える化する。同時に、新たな取組への企画・立案を進める。 ②資格検定の取得のための取組を企画する。 ③進路自習室の整備し、学集環境を充実させる。 ④「Classi」の活用検証を行う。 ⑤他の学習コンテンツとの比較・検討に取り組む。 ⑥遅刻者数の減少に向けた取組を全職員で行う。	①業務内容を明確化したうえで、新たな取組への企画・立案ができたか。 ②資格検定の取得のための取組を企画することができたか。 ③進路自習室の環境を充実させることができたか。 ④「Classi」の活用アンケート結果を分析し、総括することができたか。 ⑤他の学習コンテンツの活用について、検討することができたか。 ⑥遅刻者数が昨年度よりも減少したか。	①各分掌で業務内容を見直し、小論文指導や面接指導、長期休業中の補習等を明確にした。また、推薦会議の方法について改善し、調査書の作成手順や起案方法について整理した。 ②英語技能検定、漢字検定について取得に向けて全校生徒に周知し希望者を募った。英語検定は毎回実施できたが、漢字検定はできなかった。 ③進路自習室は活用できている。環境を充実させるために必要な物品等を整備していく必要がある。 ④職員、生徒の生成AIの活用について検討している。ICT支援員を講師として生成AIの活用について9月に職員研修会を実施した。 ⑤検討は行ったが、来年度に向けて継続検討とした。 ⑥1日の遅刻者平均23.1人（10月末現在）で増加傾向にある。遅刻指導は生徒支援部を中心に組織的に実施している。	B	①進路多様化ではあるが、大学進学者が増えてきている。年内入試に特化した指導体制について検討する必要がある。 ②検定の周知の方法や進路との関係性について検証し、修正していく必要がある。 ③進路自習室を充実させるために予算を確認しながら必要な物品を購入する。 ④令和8年度、生徒がスムーズに生成AIを活用できるように教職員が知識と技能を身に付ける必要がある。 ⑤遅刻指導は事後指導が主であるため、家庭の理解と協力なしに進めることは非常に難しい。生徒一人ひとりへの遅刻に対する意識の醸成と家庭からの協力を得ることが課題である。
		生徒理解の観点での個別指導の定着	①教職員に、いじめの認知に関する共通認識を持たせる。 ②学校内の複数の教職員で行うチーム支援の体制づくりを行う。 ③学校独自のスクールカウンセラー等を活用し、早期発見・早期対応を実践する。	①教職員のいじめの認知に関する理解が深まったか。 ②生徒支援部と特別支援コーディネーターを中心にケース会議を行い、個別の支援を行っている。 ③いじめアンケート（年2回）、学校生活アンケート（年1回）を行った。内容を共有し学校運営や学級運営に役立てるとともに、丁寧に生徒対応している。	①防止対策委員会でいじめの認知に関する理解が深まるように情報共有を行った。 ②生徒支援部と特別支援コーディネーターを中心にケース会議を行い、個別の支援を行っている。 ③いじめアンケート（年2回）、学校生活アンケート（年1回）を行った。内容を共有し学校運営や学級運営に役立てるとともに、丁寧に生徒対応している。	A	①教職員間の情報共有と学年を超えた連携を深め、いじめのない学校づくりを目指す。 ①生徒、保護者のいじめの認知に関する理解が深まるように情報発信をしていきたい。 ②学年によるチーム、学年を超えたチームを意識しながら生徒の個に対応するため、チーム支援の体制を構築する必要がある。 ③継続してアンケートを実施していく。
3	【現状】 ○家庭環境、能力・適性、興味・関心等が多様化しており、心理や人間関係が複雑化している。 ○対人関係や集団生活に不安を持つ生徒が増えており、不登校となってしまう生徒が一定数いる現状がある。 【課題】 ○生徒の実態に応じて指導を行う体制づくりが必要である。 ○自他の個性を尊重し、相手の立場にたって考え、行動できるようにすることが重要である。	教育相談体制の拡充	①多様な生徒に対応するため、学校内での教育相談体制を構築する。 ②心身の健康問題や発達特性、家庭環境等、様々な視点で生徒を捉え、包括的な生徒支援を行う。	①多様な生徒に対応するための教育相談体制を構築することができたか。 ②包括的な生徒支援の取組を実践できたか。	①学期初めの二者面談を実施し、生徒が相談しやすい環境を整えている。 ①学校独自のスクールカウンセラーを活用し、職員からの情報を軸に早期発見、早期対応して生徒のメンタルケアをしている。 ②生徒を取り巻く環境を学級担任だけでなく、教科担当や部活動顧問など様々な視点で共有し、生徒を包括的に支援している。 ②スクールカウンセラーによる研修会（8月）を実施した。	A	①担任による二者面談を継続していく。部活動顧問による生徒面談を検討する。 ①スクールカウンセラーや特別支援コーディネーターを中心により一層、教育相談体制を充実させたい。 ②生徒を一面で捉えるのではなく、多面的に捉えられるようにスクールカウンセラーによる研修会を実施する。
		PTA活動の新たな体制づくり	①PTA活動のスクラップ&ビルドを進め、新たな活動計画を構築する。 ②さくら連絡網の機能を最大限に活用できるように工夫する。 ③生徒の主体的な取組として、広報活動に参加させる。	①新たな活動計画を構築することができたか。 ②さくら連絡網の機能を最大限に活用し情報発信ができたか。 ③生徒ボランティアを活用した取組ができたか。	①学校評価懇話会や文化祭等の学校行事だけでなく、生徒の講演会にも保護者が参加できるような仕組みを構築した。 ②さくら連絡網を活用して学年通信やクラス通信をデータで送信した。また、事務室からも適宜、保護者に情報発信している。 ③生徒ボランティア101人（1月末）が学校説明会やコスモスの植栽等で活躍した。	B	①生徒対象の講演会などをさくら連絡網で保護者に知らせ、来校できる機会を新たに創出していきたい。 ②保護者宛の通知だけでなく、様々な通信を配信する。次年度は図書館通信を保護者に配信する予定である。 ③生徒が自ら学校説明会や志木高校の情報発信に参加できるようにする。
4	【現状】 ○PTA活動の在り方が見直されるようになり、参加の仕方も多様化してきている。 ○中学生やその保護者の広報への期待は大きく、本校の活動への興味関心が高まっている。 【課題】 ○PTA活動の精選を行い、保護者の負担軽減を進めることが重要である。 ○中学生やその保護者のニーズを正確に把握し、丁寧にきめ細かい情報発信を進める必要がある。	広報に関する企画・立案の拡充	①他校の実施状況を分析し、ニーズの高い企画を実践する。 ②外部メディアやSNS等を積極的に活用し、効果的に教育活動を配信する。	①中学生やその保護者が満足できるような企画を計画することができたか。 ②本校の魅力を広く周知し、入学したい学校として認知されたか。	①学校説明会のアンケート結果から、中学生やその保護者は説明会の内容に満足している。生徒による質問コーナーやパネルディスカッションなど、新たな取組も好評だった。 ②動画による学校紹介や学校ホームページを積極的に更新し本校の活動を広く周知することができた。本校の魅力が伝わるように学校案内も工夫し、チラシ等も作成した。	A	①生徒と教職員と一緒に学校の様子を説明することや生徒が中心になって学校の様子を説明することを学校説明会で継続していく。 ②広報に必要なグッズを整え、さらに本校が広く認知されるようにする。
		PTA活動の新たな体制づくり	①PTA活動のスクラップ&ビルドを進め、新たな活動計画を構築する。 ②さくら連絡網の機能を最大限に活用できるように工夫する。 ③生徒の主体的な取組として、広報活動に参加させる。	①新たな活動計画を構築することができたか。 ②さくら連絡網の機能を最大限に活用し情報発信ができたか。 ③生徒ボランティアを活用した取組ができたか。	①学校評価懇話会や文化祭等の学校行事だけでなく、生徒の講演会にも保護者が参加できるような仕組みを構築した。 ②さくら連絡網を活用して学年通信やクラス通信をデータで送信した。また、事務室からも適宜、保護者に情報発信している。 ③生徒ボランティア101人（1月末）が学校説明会やコスモスの植栽等で活躍した。	B	①生徒対象の講演会などをさくら連絡網で保護者に知らせ、来校できる機会を新たに創出していきたい。 ②保護者宛の通知だけでなく、様々な通信を配信する。次年度は図書館通信を保護者に配信する予定である。 ③生徒が自ら学校説明会や志木高校の情報発信に参加できるようにする。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和8年2月6日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・平時の家庭学習時間を延ばすための工夫として、ICTなどを活用してはどうか。 ・家庭学習について、学習計画の指導など、学校からの支援が子供には効果的なので継続してほしい。 ・生徒が落ち着いて授業を受けられている。生徒同士がコミュニケーションを取りながら集中して学習していて良かった。今後も継続してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT支援員がいることで、先生方のスキルが上がることを期待している。 ・ICT研修会はとても良い取組なので継続してほしい。 ・生成AIについては、社会情勢を見ながら取り入れてほしい。保護者も知らないことがあるので、子供と一緒に学べるというのではないかな。 ・授業でICTを多く使用しているようだが、紙の良さも活かしながら授業改善をしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定は高校の責務だと考えているので、生徒が自らの意思で進路決定できるようにサポートをしてほしい。 ・四年生大学希望者が50%以上になってきたことから、今後の学校の方向性を考える必要がある。また、中学生にどう示すかが生徒募集に直結するため、早めの検討が必要だと思う。 ・最近、年内入試が主になっているので、総合型選抜で上位大学等を目指すように指導したらどうか。 ・遅刻を減らすにはどうしたらよいか、具体的な方法を学校として考えてほしい。生徒にゆだねる部分があってもいいのではないかな。 ・遅刻は進路実現に直結することを今以上に生徒に浸透させ、進路に対する意識を高めてほしい。 ・社会に出ると時間が守れることはとても重要なので、準備する時間を十分に確保することを意識させてほしい。 ・遅刻については家庭の協力が重要だと思うので、保護者の協力を得てほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・広義のいじめの定義を全職員が認識して、いじめの認知をしながらいじめのない学校づくりを組織的に進めてほしい。 ・いじめ問題対策委員会やケース会議など、個々の事案に対して丁寧に対応しているのが安心した。 ・いじめアンケートや学校生活アンケートの結果を分析し、今後の学校運営に役立ててほしい。 ・自転車通学者のヘルメット着用について、学校として着用を進める方策として、生徒会を中心に生徒へ働きかけることを検討してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が保護者よりも年齢の近い先生からの話を聞いてもらっていいがたい。継続してほしい。 ・特別支援コーディネーターを中心に生徒一人一人に寄り添ってほしい。 ・教育相談体制ができていようなので、より充実させながら来年度も継続してほしい。 ・スクールカウンセラーの研修会で、生徒の実態に合った内容を取り入れてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への参加方法について、新たなアレンジをしたことは興味深い。理事が不足しているようなので理事を選出する必要がある。新たなPTAの形を模索してほしい。 ・PTA、保護者の協力を得ながら学校行事等、様々な内容を進めてほしい。 ・多くの生徒がボランティアに参加していて良かった。学校説明会を通じて、生徒が自らの考えを発信することができている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動はとても大事である。生徒の姿が見える学校説明会等はとても良い。生徒の活躍の場がある広報活動をしてほしい。 ・地域の中でも高い倍率を維持している。志木高校の良さを広く伝えてほしい。 ・学校ホームページは多くの中学生や保護者が見ている。学校の様子が変わるように更新してほしい。特に情報が古い部活動等は是非、新しい内容に更新してほしい。 	